

H30年度 アクティブ・ラーニング（以下AL）校内研修会実施報告

日時 平成30年4月6日（金）
場所 多治見高校 3-E 教室
参加者 本校職員42名
実施者 大宮 知野 本校理科教諭
テーマ ①AL 授業を体験する（新転任者を含む）
②AL 授業になぜ取り組むのか、
どんな効果があるのかについて共通理解
を図る



実施目的

本校は、岐阜県教育委員会の指定を受けて、「魅力ある高校づくり推進事業」の中の「次期学習指導要領を見据えたカリキュラム開発事業」の研究に取り組んでいる。本年度は3年目のまとめの年になる。昨年度同様の校内研修会を行い、この内容を新入生のLHRでも実施した。アンケートをとったところALへの前向きな評価を得ることができた。今回も①転任や新任の先生を迎えて、教員間でもALの体験を通してその意義や効果について共通認識を図ること、②新入生に対して、AL授業になぜ取り組むのか、どんな効果があるのかなど意識づけることを目的に、校内研修会を実施した。

実施内容

今回の研修では、実際に今年の入学生を対象に行うAL型のLHR2時間分を1時間に凝縮する形で、教員が生徒役となり、協働学習であるペアワークやグループワークを体験して、AL型授業の効果を確認した。今社会で求められている、コミュニケーション能力や協働的能力、また自己表現力やプレゼンテーション能力、聞く力、説明する力などを、仲間と協力したり、問題解決をしたりする実際の活動を通して身につけることができることを再確認する場となった。具体的な活動の内容は、アイスブレイクから始まり、昨年は漢字を使って協働学習の効果を確かめるものを行ったが、今年度は数字を使った四則演算を通して個で取り組み、その後ペアで取り組み、グループで取り組む中で、答え合わせのみでなく、解法の相談など、よりよい学びあいを行うことができた。



写真1 まずは自分で問題解決に挑む



写真2 ペアワークで解答を確認します



写真3 グループで解法を交流します



写真4 タイマーを使って時間配分の管理をします

研修のまとめ

今回の研修は昨年とは内容を変更した数字を使ったものだったが、教員間での活発な意見交換によりALの効果を再認識でき、共通認識が図ることができたと思う。AL型授業の本質である「自分で考えることを大切にしたい個の学習→その意見を集団で話し合い意見交流をする→最後に定着したかを振り返りシート等を用いて個に戻す」この「個→集団→個のサイクル」の重要性を教員が改めて認識できたことは大きな収穫であった。内容的にはアイスブレイク的な面が強かったが、こういう手法を各教科でアレンジしてもらい授業でも応用していきたいと考えている。

課題としては生徒の様々な反応を想定するため、ALの授業を練るのに時間が多くかかること、生徒のレベルに合わせた適切な課題を用意できるかどうかである。またALを授業で実施すると講義形式のものより時間がかかったりするため年間の進度との兼ね合いを考え、講義をして知識を定着させる場面とALを用いて生徒に考えさせる場面など、単元によって生徒にとって最適な手法を模索していく必要があると感じている。

とりわけ昨年度も話題になったが、AL型の授業は生徒も活発に活動できるというメリットはあるものの、どうしても話し合いや交流のみに終わってしまい、授業の中で最低限の知識が獲得できたのか、どの程度定着したのか、授業の目標がどれくらい達成できたのかがわかりにくいという課題がある。本日の内容がどれくらい理解できているかを把握する「振り返りシート」の他に、授業の最後に確認テストを行ったり、次の時間に小テストを行ったりするなどやり方はいろいろあると思うが、定着度の把握は確実にやりたい。

今後の社会では確実に、自分で主体的に判断し、表現し、協働の力を通して問題を解決する力が求められる。そのような力を生徒につけさせるためにどのようなことが必要か、教員も試行錯誤を繰り返しながらチャレンジしていきたい。

(文責 大宮)